

ἄγγελος

アンゲロス

知っておきたいキリスト教のことば (142)

天使 てんし

テレビアニメ「フランダースの犬」の最終回を覚えているでしょうか。ルーベンスの絵の前で力尽きたネロとパトラッシュが天に召される時、その魂を引き上げに来たのは小さなかわいい天使たちでした。

天使は旧約聖書の中にも登場します。神の御使いといった名前と呼ばれることも多いですが、天使の働きは神さまの意思を告知したり、裁きを下したり、救いを与えることです。神さまと人間(預言者)との間に位置し、人間のために執り成しをしたり、メッセンジャーとして登場したりします。

新約聖書を見ると、イエス様の生涯の重要な場面に天使が登場することに気づかされます。マリアの受胎告知は天使ガブリエルによってなされ、また荒れ野の誘惑のあと、天使たちがイエス様に仕えました。さらにゲツセマネで祈るイエス様をカづけたという記述もあります。そしてイエス様の復活の場面にも、天使が出てきます。

また使徒言行録をみると、初代教会において天使は使徒たちを助け導いたようです。宣教をおしすすめ、また逮捕されたペトロを牢獄から助出したりもします。

ヨハネの黙示録には、67回(新約聖書全体では176回)も天使が登場します。天使は終末の裁きのときに、イエス様と共に出現するとされます。その中には7人の天使がいると書かれていますが、黙示録の中で名前が出てくるのはラファエルだけです。

外典(聖書には収められなかった書物)であるエチオピア語エノク書にはその7人の名前が書かれています。ウリエル、ラファエル、ラゲル、ミカエル、サリエル、ガブリエル、ファヌエルです。ちなみに「エル」とは神さまのことです。つまり天使は名前からも、天的存在であることがわかるのです。

次回は「伝承」です。楽しみに。



「受胎告知」

エル・グレコ

(1541~1614年)

すると、天使が天から現れて、イエスをカづけた。

(ルカによる福音書22章43節)

